

occupied by the Soviet Union in
administered by Russia,
claimed by Japan.

文化人の 見た 近代アジア

全24巻（分売可）

◆監修 竹松良明 大阪学院短期大学助教授

作家・画家・ジャーナリストらが自由な眼でとらえたもう一つのアジア像。いま、アジアへの理解を深めるための貴重な記録。

ゆまに
書房
YUMANI
SHOBOU

推薦します

北進論・南進論の内実を知るために

明治政府が唱導した「北守南進」政策は「偽満州」帝国の樹立以後、急速に南進政策に重点が置かれ太平洋戦争へと拡大していったという歴史事実がある。その過程に文化人がどのように関与したかについては、多くの著書があつたにもかかわらず人々の目にふれることなく長い間埋もれたままになっていたのである。

「文化人の見た近代アジア」全二十四巻に収められた著書は古書店でもめつたにでないものであり、歴史の実態を知るうえで貴重である。近年盛んになってきた日本の植民地、占領地の研究に多いに寄与することはまちがいない。

文化人の現地報告が貴重なのは、為政者の目論みを見抜きながら現地の人々の生活を冷静に観察しているからである。総体的に見れば、アジアの人々が何に苦しんでいるかということが浮かびあがってくる。

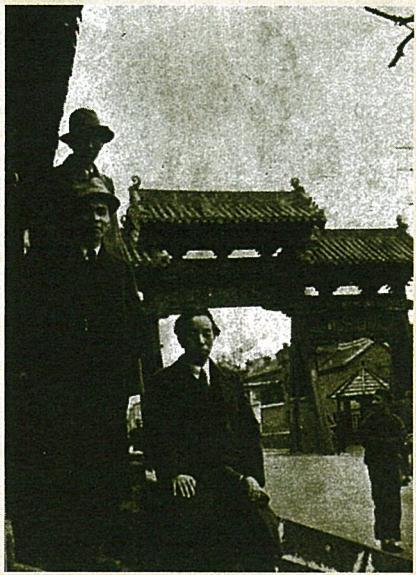
自主的に出かけた人、徵用された人、文化使節として派遣された人など動機はさまざまであるが、初めて接したその国の人々の生き方に共感し、異文化を積極的に学ぼうとする姿勢が共通している。

時代は今、アジアの人々と日本人がどのように共生するかという段階にきている。かかるおりしも、異文化に最初に接した文化人の記録を読むことは将来のアジア理解を深めるために大事であることを確信する。

(北海道大学名誉教授・北海道文学館理事長)



吉尾なつ子（馬上の人物）



右下から豊田三郎・井上友一郎・新田潤

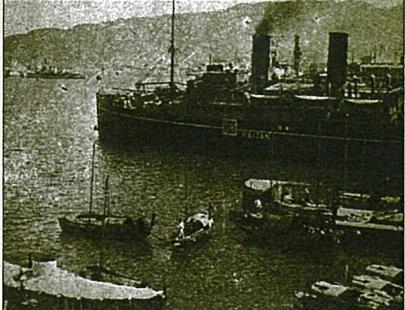
推薦します

木村一信

アジアとの「共生」を目指すために

「二一世紀はアジアの時代」との声があたりに満ちている。たしかに、世界の人口の半数近くを有し、大陸や半島、島嶼などからなる広大で豊かな地域を考えあわせると、アジア地域の盛衰が世界の動向を左右するといつても過言ではない。さまざまな面において多様さを持っているこの地域の「共生」を目指すことは、いまの私たちにとって的一大課題であるだろう。ひるがえって考えてみると、実は二〇世紀もまたアジアの時代であつたとみなしうるのではないだろうか。近代化の苦闘期にあつた東アジア地域、西洋列強の植民地支配からの脱却を目指し、国民国家形成に尽力していた東南・西南アジアの地域などは、いくつかの大きな戦争を経験する中で、その命運が世界のそれと重なつていたと捉えられよう。こうした「アジアの時代」の諸相を、日本のいわゆる文化人たちはどうな思いでもつて見つめ、考え、表現し、かつ、いかなるアジア体験を有したであろうか。それらを一度はトータルに考えなければ、私たちは、アジアの時代についての認識を持つことも、それを進展させることもできないであろう。いまここに、竹松良明氏の監修・編集により、また、氏と問題意識を共有する気鋭の研究者たちの解説によって、それらの言説が私たちの前に提示された。現代では入手することの困難、かつ貴重な文献が多く含まれている。二〇世紀のアジアと日本との関わりを、文化的、歴史的、社会的、文学的に鳥瞰しようと共に、二一世紀のアジアとの「共生」を示唆することは大きな喜びである。

(立命館アジア太平洋大学教授)



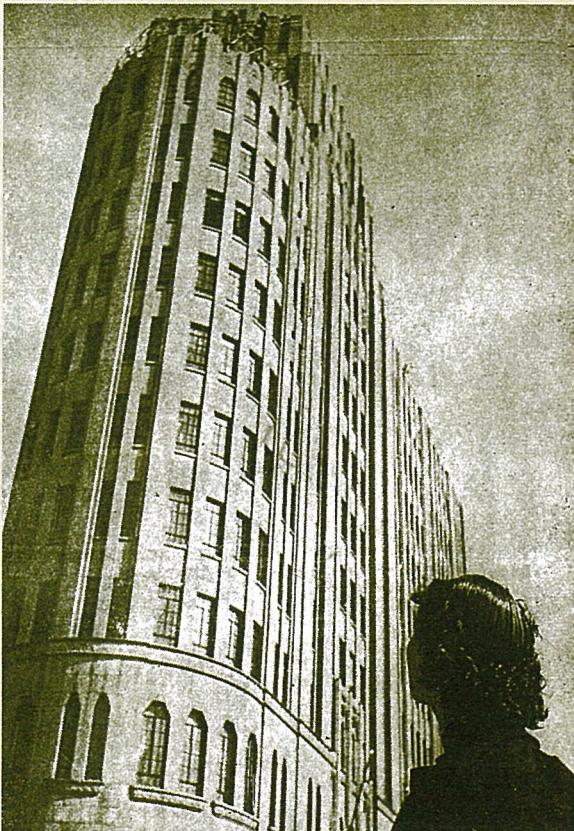
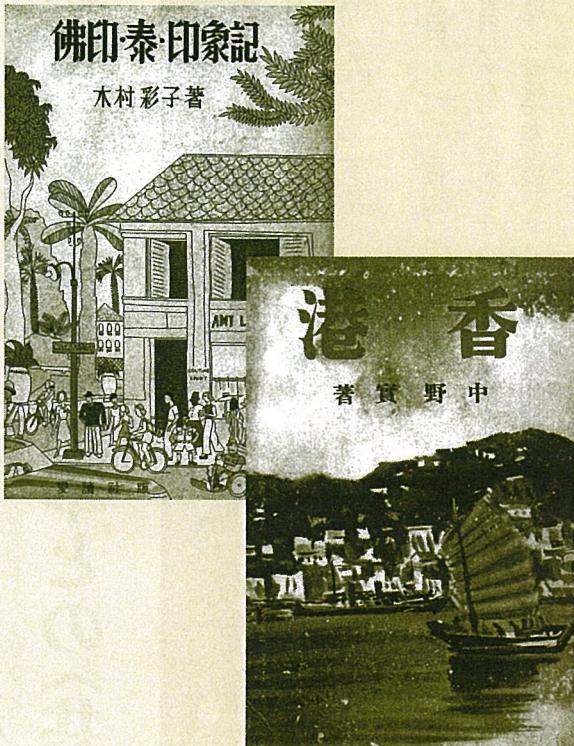
監修のことば

大阪学院短期大学助教授

竹松 良明

明治四（一八七一）年から明治六年にかけて岩倉使節団が、歐米の先進諸国をつぶさに見届けたその興奮の余熱の残る眼で、帰路の西アジアから東南アジアを眺めた時、そこには貧困と無知とそして豊かな資源の中に安住する「怠惰」な逸民のイメージが浮かび上がった。「民ノ繁息スルコトモ、亦草木ト一般」（久米邦武編『米欧回覧実記』、博聞社、明治一一年）というような、文明の実利を基軸としたこの観点を近代のアジア観の出発点に据えた上で、現在に至るまでの政治・経済・軍事に関わる対アジア意識の目まぐるしい変遷を思えば、そこには対西欧の課題を搖るがすほどの、身近な難問としてのアジア問題が歴史の必然として山積していく感がある。

明治この方海外への渡航・滞在の記録の華は欧米ものであつたが、昭和一〇年代に入つて国際的緊張の中でそれはアジアものに逆転する。満州事変・日中戦争に前後してまず中国、さらに昭和一五（一九四〇）年における從来の「南守北進」から「北守南進」への軍事方針交換に伴つて東南アジアが、外地関係の書物を席捲していく。ここに集めたアジアの旅行記・ルポルタージュ・隨筆の類は、まさにそうした風雲急を告げる危機意識の中で各々が一個人の資格で確かに見届けようとしたアジアの姿でありその印象である。一冊ほど太平洋戦争開始後のいわゆる南方徵用作家の從軍ものが入っているが、多くは日中戦争下にもかかわらず時局に囚われない自由な眼に映じた新鮮なアジアを描いている。画家・ジャーナリストその他を含みつつ作家の著作が主となるが、ほとんど個人全集・作品集を持たない、いわゆる單行本の作家たちである。中には、「日本近代文学大事典」に立項されていない作家も数人いるが、ここに選んだ著作はたとえ作家の名が文学史の波間に没しようとも、一人の日本人が真摯な眼差しでアジアを見つめた貴重な記録として、歴史的に登録されることを疑わない。



作家、画家、ジャーナリストなど、文化人の自由な眼に映った近代アジアの姿。いま、アジアと日本との〈共生〉を考えるための基礎文献。

全24巻の構成

●全24巻 標定価：本体2,630円+税 ISBN4-8433-0697-5 C3393

1 シンシナティ警備 霜野一一彦著

ISBN4-8433-0698-3 ○本体1,000円 [樺太]
酷寒とツンドラのなかで、兵士として北方の警備にあたった画家がどうえたサガレンの風土や原住民の姿。現地のスケッチを多数収録。

昭和一七年 鶴書房 (解説・村田裕和)

2 千島 北方探険記 吉尾なつ子著

ISBN4-8433-0699-1 ○本体1,100円 [千島]
ハマスの花香る択島を単身訪れた女性作家と、鮭鱈漁や捕鯨に従事する島民との心の交流。千島の人々の生活や産業の貴重な記録。

昭和一七年 三崎書房 (解説・田村修一)

3 半島の朝 湯浅克衛著

ISBN4-8433-0700-9 ○本体1,000円 [朝鮮]
日韓併合後、急速に近代化の波が押し寄せた朝鮮。「心田開発」のスローガンの下で、半島農民の生活はどのように変化したかを描く。

昭和一七年 三教書院 (解説・真鍋正宏)

4 わが風土記 張赫宙著

ISBN4-8433-0701-7 ○本体9,000円 [朝鮮・満州]
日本に帰化した朝鮮人作家、張赫宙の隨筆集。故郷の追憶記や朝鮮紀行のほか、満洲移民や朝鮮文学について論じたエッセイを収録。

昭和一七年 赤塚書房 (解説・許南薰)

5 満洲旅日記 井上友一郎・豊田三郎・新田潤著

ISBN4-8433-0702-5 ○本体1,300円 [満州]
特急「あじあ」、馬車、トラックなど、それぞれに満洲各地を巡る三人の作家の行動的旅日記。三者ともにとらえた満洲国の諸相。

昭和一七年 明石書房 (解説・黒田大河)

6 大陸に生きた 望月百合子著

ISBN4-8433-0703-3 ○本体1,300円 [北京]
開拓移民村のルポのほか、満洲婦人の問題について論じた文章を收めた著者は満洲新聞婦人部長として、建国事業に情熱を注いだ。

昭和一六年 大和書店 (解説・宮内淳子)

7 現代支那の文化と藝術 一戸務著

ISBN4-8433-0704-1 ○本体1,200円 [北京]
日中戦争下の中国における芸術・文化政策・日本文化の影響等についてまとめたもの。当時の日本人に中国理解を呼びかけた書である。

昭和一四年 松山房 (解説・小川直美)

8 北支蒙疆戰線 長谷川春子著

ISBN4-8433-0705-X ○本体9,000円 [北支・モンゴル]
特別通信員として北支とモンゴルを巡った際の体験記。画家である著者が挿絵も描き、現地の民衆等の姿が女性の眼から活写される。

昭和一四年 晓書房 (解説・西村将洋)

9 魔都 村松梢風著

ISBN4-8433-0706-8 ○本体1,200円 [上海]
あらゆる秘密と罪悪が渦巻く「魔都」上海。その魅力の虜となつた著者の筆は、国際都市として知られた上海の風俗を詳細に再現した。

大正一三年 小西書店 (解説・和田博文)

10 新しき上海のアーバンホールーム 吉行エイスケ著

ISBN4-8433-0707-6 ○本体1,100円 [上海]
上海事変勃発の前年、上海に遊んだ著者がかつての花咲ける都を回想した書。上海の色彩的な都市の魅力を余す事なく描出したもの。

昭和七年 先進社 (解説・和田博文)

11 支那人・文化・風景 小田嶽夫著

ISBN4-8433-0708-4 ○本体1,100円 [上海]
上海に逗留した際の見聞記と、魯迅・茅盾らの上海を拠点とした現代中国作家論を収録。卷末に上海舞台にした小説「泥河」を付す。

昭和一一年 竹村書房 (解説・大橋毅彦)

12 香港 中野実著

ISBN4-8433-0709-2 ○本体1,100円 [香港・南支]
主として香港・広東で宣伝報道の任に当たった著者の事変下の記録。表題作は、香港の実情を暴いた中国青年の手記を基にしたもの。

昭和一六年 蒼生社 (解説・平野晶子)

13 新亞洲行進曲 北村兼子著

ISBN4-8433-0710-6 ○本体1,500円 [台湾]
婦人文化講演会講師として台湾に招かれた著者は、わずか半月の滞在で精力的に各地を取材。鋭敏な観察眼で台湾の諸相を描く旅行記。

昭和五年 婦人毎日新聞台湾支局 (解説・平野晶子)

14 南洋群島 丸山義二著

ISBN4-8433-0711-4 ○本体1,100円 [パラオ・ヤップ他]
昭和一五年、著者は南洋群島を一ヶ月間周航。その見聞をまとめたもの。パインapple栽培を営む農業移民の生活などを活写している。

昭和一七年 大都書房 (解説・黒田大河)

15 比島日記 阿部(三宅)艶子著

ISBN4-8433-0712-2 ○本体1,100円 [フィリピン]
著者が陸軍省の要請で、視察報告のためフィリピンに渡ったさいの日記。現地の人々・景色・習俗への身近な愛情に満ちている佳品。

昭和一九年 東邦社 (解説・竹松良明)

16 萬歳 チャイコウ著

ISBN4-8433-0713-0 ○本体1,200円 [ビルマ・タイ]
太平洋戦争中、陸軍報道班員としてビルマ・タイに徵用された作家の宣伝活動記録。戦争の中の日常がユーモラスに描かれている。

昭和一九年 泉書房 (解説・土屋忍)

17 仏印・泰・印象記 木村彩子著

ISBN4-8433-0714-9 ○本体8,000円 [ベトナム・タイ]
フランスの植民都市として発達したサイゴン。その都会的な洗練を若き日本女性がどのように愛着したか。家族に宛てた書簡も併録。

昭和一八年 愛読社 (解説・竹松良明)

18 仏印への途 小松清著

ISBN4-8433-0715-7 ○本体1,200円 [マレーシア]
著者がマレーに報道班員として従軍したときの記録。シンガポール陥落後、占領下のペナンにおける現地人々の眞撫の様相が描かれる。

昭和一六年 六興商会出版部 (解説・真鍋正宏)

19 マハイの静脈 寺崎浩著

ISBN4-8433-0716-5 ○本体1,000円 [マレーシア]
著者がマレーに報道班員として従軍したときの記録。シンガポール陥落後、占領下のペナンにおける現地人々の眞撫の様相が描かれる。

昭和一八年 春陽堂書店 (解説・土屋忍)

20 爪哇の旅 加藤朝鳥著

ISBN4-8433-0717-3 ○本体1,500円 [インドネシア]
ジャワに渡った英文学者が、現地の習俗・芸術・宗教などに触れながら、故国日本に繋がれた自己を見出す。「爪哇渡航案内」を併録。

昭和一一年 新光社 (解説・和田桂子)

21 ジャワの旅 三雲祥之助著

ISBN4-8433-0718-1 ○本体1,000円 [インドネシア]
昭和一六年、高見順とジャワ、バリ島方面を旅行した際の感想紀行文。インドネシアの文化的な様相を伝えた書として貴重なもの。

昭和一七年 大日本出版 (解説・宮内淳子)

22 インドは語る 野口米次郎著

ISBN4-8433-0719-X ○本体1,200円 [インド]
インドに講演旅行に赴いた際の記録。ガンジーやタガールとの会見や、仏教美術への感動を通じて、インド文化の偉大さを伝えた書。

昭和一七年 第一書房 (解説・和田桂子)

23 黄色の沙漠 画家の見たイラン 野口米次郎著

ISBN4-8433-0720-3 ○本体1,200円 [イラン]
旅の驢馬、水売り商人など、沙漠を旅する画家の絵心を唆る幾多の風物。スケッチと共に語られる、見たまま感じたままのイランの姿。

昭和一七年 岡倉書房 (解説・村田裕和)

24 波斯より土耳古まで ベルシャー・トルコ

ISBN4-8433-0721-1 ○本体6,000円 [ペルシャ・アラビア・トルコ]
第一次大戦後、石油の資源地として注目された中近東。ペルシャ・アラビア・トルコの近情や、イスラム教徒の生活についての講演録。

大正一五年 文明協会 (解説・西村将洋)

著者略歴

※卷数収録順



木村彩子



長谷川春子



北村兼子



丸山義二



望月百合子



小松清

霜野二一彦 しもの ふいひこ
太正二一(一九一三)・四・二六・昭和五五(一九八〇)・一一・一六。

挿絵画家。札幌市生れ。本名下野利雄。川端画学校に学び、のち松野一夫に師事。昭和一〇年ごろより、「新青年」(週刊朝日)「報知新聞」などに探偵小説やスポーツ小説の挿絵を描く。挿絵の代表作に甲賀三郎「午後二時三十分」や佐野洋「旅をする影」などがある。また、絵物語「野獣の城」などの「怪人魔シリーズ」の著者としても知られる。

吉尾なつ子 よしお なつこ
明治三二(一八九九)・六・一〇・昭和四三(一九六八)・四・四。小説家。岡山県生れ。京都女子専門学校高等英文科卒業後、女学校教師を経て、時事新報婦人部主任をつとめる傍ら小説を執筆。昭和七年、広津和郎の推薦で「文芸首都」同人となる。昭和一五年「女事務員」を刊行。昭和一八年、朝鮮に渡り、「国民文学」同人となる。女性的な織細さで描かれた小説を多く執筆。著書に「女人一路」「夜」との潮など。

湯浅克衛 ゆあさ かつえ
明治四三(一九一〇)・一二・二六・昭和五七(一九八二)・三・一五。小説家。香川県善通寺生れ。守備隊勤務の父に連れられ二歳で朝鮮に移住。一七歳まで主に朝鮮で過ごす。昭和一〇年「カントナニ」でデビュー。同年「焰の記録」が「改造」の懸賞小説に二等入選し文壇に出る。その後第二次「現実」や「人文文庫」に参加。著書に「先駆移民」「鶴綠江」など。その作品は、朝鮮民衆への深い共感と愛情に溢れている。

張赫宙 (野口赫宙) ちよう かくちゅう
明治四八(一九〇五)・一〇・一三・平成一〇(一九九八)。小説家。朝鮮慶尚北道大邱生れ。本名・張恩重。大邱普通学校を卒業後、教諭をとれ、のち帰化。「權といふ男」「奮ひ立つ者」などで、朝鮮民族の現実や民族的苦悩を描いた。著書に「開墾」「嗚呼朝鮮」など。

井上友一郎 いのうえ ともいちろう
明治四一(一九〇九)・三・一五・平成九(一九九七)・一・一・一。小説家。大阪府生れ。早稲田大学在学中、同人雑誌「換氣箇」に参加。昭和六年、「森林公園」で川端康成に認められる。のち「人文文庫」同人。昭和二三年、都新聞特派員として中国戦線に従軍。翌年、「文學者」に「殘夢」を発表し、文壇出世作となる。戦後は「絶壁」などの風俗小説により流行作家となつた。著書に「波の上」「從軍日記」など。

豊田三郎 とよだ さぶろう
明治四〇(一九〇七)・二・一二・昭和三四(一九五九)・一・一・一。小説家。埼玉県生れ。森村桂の父。昭和五年、同人雑誌「制作」を創刊。昭和六年、「森林公園」で川端康成に認められる。のち「人文文庫」同人。昭和二三年、都新聞特派員として中国戦線に従軍。翌年、「文學者」に「殘夢」を発表し、文壇出世作となる。戦後は「絶壁」などの風俗小説により流行作家となつた。著書に「行軍」「好きな絵」など。

新田潤 にった じゅん
明治三七(一九〇四)・九・一八・昭和五三(一九七八)・五・一四。小説家。長野県上田市生れ。本名・半田祐一。東京帝國大学在学中、同人誌「文芸交錯」を発刊。昭和八年、高見順らと「日暦」を創刊し、権力に虜められる庶民の姿を描いた「煙管」を発表。諷刺的で軽妙な筆致で文壇に認められる。昭和一年、「人文文庫」に参加。小市民の生活を主題とした作品を執筆した。著書に「片意地な街」「崖」など。

岩崎栄 いわさき さかえ
明治三三(一九〇〇)・九・一八・昭和五三(一九七八)・六・九。新聞記者、評論家、翻訳家。山梨県生れ。本名・古川百合。読売新聞婦人部記者を経て、パリに留学。帰国後、アナーキストの評論家として活躍。昭和三年、「女人芸術」創刊に参加し、「婦人解放の道」などの評論や、翻訳を発表。昭和二三年、満洲に渡り、満洲新聞の記者となる。著述と翻訳を中心活動。著書に「限りない自由を生きて」など。

一戸務 いちのへ つむ
明治三七(一九〇四)・八・一九・昭和五三(一九七八)・六・九。新聞記者、評論家、翻訳家。山梨県生れ。本名・古川百合。読売新聞婦人部記者を経て、パリに留学。帰国後、アナーキストの評論家として活躍。昭和三年、「女人芸術」創刊に参加し、「婦人解放の道」などの評論や、翻訳を発表。昭和二三年、満洲に渡り、満洲新聞の記者となる。著述と翻訳を中心活動。著書に「苦茶隨筆」がある。

長谷川春子 はせがわ はるこ
明治二八(一八九五)・二・二八・昭和四二(一九六七)・五・七。画家。隨筆家。東京日本橋生れ。長谷川時雨の妹。アーネ・フランセを中絶した。アーネ・フランセでフランス語と欧文タイプライターを学ぶ。昭和二六年、外務省に入り、仮印・泰國境画定委員会帝國委員代表部に随行して、仮印・タイに赴く。昭和一七年、国境画定終了とともに帰国後、辞職して勉学に専念する。翌年、水森龜之助の斡旋で「仮印・泰・印象記」を刊行した。

退、鎌木清方、梅原龍三郎に師事し、日本画と洋画を学ぶ。昭和四年に渡仏して画の修業を行う。帰国後は新聞小説の挿絵を描く一方、大阪毎日新聞社・改造社の特別通信員として中國戰線に赴いた。昭和四年、第八回文藝春秋社漫画賞を受賞。著書に「漫画漫文」「恋妻塚縁起」など。

明治二二(一八八九)・九・二一・昭和三六(一九六一)・二・一三。小説家。静岡県生れ。村松友視の祖父。日本電報通信社記者として在職中の大正六年、「中央公論」に「琴姫物語」を発表。以後、情話ものや新聞小説の代表的作家として人気を博す。大正二年に上海を旅行して以来、中国を舞台にした小説や紀行文を多く発表した。また、「本朝画人伝」などの人物評伝が名高い。著書に「ふらんすお政」「女経」など。

吉行エイスケ よしゆき えいすけ
明治三九(一九〇六)・五・一〇・昭和一五(一九四〇)・七・八。小説家。岡山市生れ。吉淳淳之介の父。岡山一中で在学中、アナーキズムに傾倒し上京。大正二三年、同人誌「壳恥醜聞」を創刊。その後「虚無思想研究」「葡萄園」などに執筆。昭和四年、「孟賛燧鉄隊」で文壇に認められる。翌年、新興芸術派俱楽部の結成に参加。のち株屋に転じるが、狭心症のため急逝。著書に「女百貨店」「新種族ノラ」など。

小田巖夫 おだ たけお
明治三三(一九〇〇)・七・五・昭和四八(一九七九)・六・二。小説家。新潟県高田市生れ。東京外語大支那語科卒業後、外務省に入省。大正二三年、杭州領事館に赴任。昭和五年辞任し、作家活動に専念。昭和一年、「城外」で第三回芥川賞受賞。昭和一〇年代、度々中国に渡り、中國に取材した作品を描く。戦後も中國文化訪問団に加わるなどその関わりは深い。著書に「紫禁城の人」「郁達夫伝」など。

中野実 なかの みのる
明治三四(一九〇一)・一・三・三〇・昭和四八(一九七三)・一・三。小説家、劇作家、小説家。大阪府生れ。岡本綱喜堂に師事し、「舞台」同人となる。昭和六年、戯曲「等寝台車」でデビュー。翌年、「歴史劇「木曾義仲」」が松竹の脚本募集に当選する。一方、昭和九年より「日曜報知」連載の「パパの青春」でユーモア小説家としての地位を確立。戦後、「明日への幸福」で毎日演劇賞を受賞。著書に「脱線令嬢」「極楽夫婦」など。

北村兼子 きたむら かねこ
明治三六(一九〇三)・一・一・二六・昭和六(一九三二)・七・一六。新聞記者、随筆家。京都府亀岡市生れ。関西大学ドイツ法律科在学中に雑誌「婦人」に投稿した「法律に学ぶ私」が認められ、朝日新聞記者となる。昭和二年に退職後は、ホノルルの汎太平洋婦人会議や、ベルリンの万国婦人参政権大会に出席。昭和五年、日本飛行学校に入学。訪欧飛行の準備をするが、七歳で病死。著書に「ひげ」「地球一蹴」など。

丸山義一 まるやまとよし
明治三六(一九〇三)・一・一・二六・昭和五四(一九七九)・八・一〇。小説家。兵庫県生れ。万朝報記者を経て、プロレタリア作家同盟に参加。昭和三年、「戦旗」掲載の「拾円札」でデビュー。昭和一〇年、貴司山司とともに「文学案内」を創刊し、「貧農の敵」「薬屋根記」などの農民文學を執筆する。昭和一三年、農民文學懇話会の結成に参画。戦後も農村に取材した作品を残す。著書に「田舎」「大陸の村づくり」など。

岩崎栄 (三宅栄子) あべ つやこ
明治二六(一八九三)・六・二九・平成六(一九九四)・一・一・七。小説家。岡山県生れ。三宅やす子の長女。文化学院を卒業後、画家阿部金剛と結婚。母やす子の末完の遺作「偽れる未亡人」を書き継いだ「墓石の言葉」を、阿部栄子の筆名で昭和七年より「婦人公論」に連載し文壇に出て。平易な文体のなかに女性の情感あふれる作品を執筆。離婚後は、筆名も三宅栄子に変える。著書に「朝餐」「トイレッタ」など。

岩崎栄 いわさき さかえ
明治二六(一八九三)・六・二九・平成六(一九九四)・一・一・七。小説家。岡山県生れ。三宅やす子の長女。文化学院を卒業後、画家阿部金剛と結婚。母やす子の末完の遺作「偽れる未亡人」を書き継いだ「墓石の言葉」を、阿部栄子の筆名で昭和七年より「婦人公論」に連載し文壇に出て。平易な文体のなかに女性の情感あふれる作品を執筆。離婚後は、筆名も三宅栄子に変える。著書に「朝餐」「トイレッタ」など。

志賀重昂 しが しげたか
明治三九(一九〇六)・七・二四・平成元(一九八九)・一・一・二七。画家。岡山県生まれ。木村荘八に師事し、川端画学校・春陽会洋画研究会所を経て、昭和七年に第十回春陽会展で「赤い帽子の子供」が初入選。昭和六年、駐イラン公使の市川彦太郎の要請でイランに渡る。翌年、「黄色い沙漠」(画家の見たイラン)を刊行し、日本におけるイラン文化紹介の先駆者となる。その他の著書に「ペルシャ湾」がある。

縫田栄四郎 ぬいた ようじ
明治八(一八八五)・一二・八・昭和二二(一九四七)・七・一三。詩人、英米文學者。愛知県生れ。明治二六年渡米。一八九六年、第一詩集「Seen and Unseen」を出版し、アメリカ詩壇に留出。一九〇二年ロンドンに渡り、スパン・スペインに留学。パリで知った仏文學者小松清に触発され、油絵を描き始める。昭和一八年に春陽会に参加。妻の小川マリと二人展を開催し、「パリスの審判」などのみずみずしい画風の作品を発表。のち武藏野美術大学教授となる。著書に「美的秩序」などがある。

野口米次郎 のぐち よねじろう
明治八(一八八五)・一二・八・昭和二二(一九四七)・七・一三。詩人、英米文學者。愛知県生れ。明治二六年渡米。一八九六年、第一詩集「Seen and Unseen」を出版し、アメリカ詩壇に留出。一九〇二年ロンドンに渡り、翌年出版の「From the Eastern Sea」でイギリスでも認められた。明治三七年帰国し、翌年慶應大学英文科教授となる。詩論、美術論などを著す。著書に「美の秩序」などがある。

木村栄子 (木村栄子) さかえ
明治一〇(一九二一)・一二・一三・平成六(一九九四)・一・一・七。小説家。木村荘太の娘。アーネ・フランセでフランス語とオランダ語を学ぶ。昭和二六年、外務省に入り、仮印・泰國境画定委員会帝國委員代表部に随行して、仮印・タイに赴く。昭和一五年退職。戦争中は陸軍報道班員としてビルマに赴いた。著書に「山岡鉄舟」「徳川女系図」など。

木村栄子 さかえ
明治一〇(一九二一)・一二・一三・平成六(一九九四)・一・一・七。小説家。木村荘太の娘。アーネ・フランセでフランス語とオランダ語を学ぶ。昭和二六年、外務省に入り、仮印・泰國境画定委員会帝國委員代表部に随行して、仮印・タイに赴く。昭和一五年退職。戦争中は陸軍報道班員としてビルマに赴いた。著書に「山岡鉄舟」「徳川女系図」など。

小松清 こまつ きよし
明治三三(一九〇〇)・六・一三・昭和三七(一九六二)・六・五。評論家、仏文學者。神戸市生れ。神戸商中退の大正一〇年に渡仏し、アンドレ・マルローを知る。帰国後はマルローの「征服者」を翻訳するに参加。戦時中は仮印に滞在。戦後は執筆活動の傍ら、南北に分裂したベトナムの統一に尽力した。著書に「行動主義文學論」など。

寺崎浩 てらざき ひろし
明治三七(一九〇四)・三・二二・昭和五五(一九八〇)・一一・一〇。

小松清 こまつ きよし
明治三九(一九〇六)・五・一〇・昭和一五(一九四〇)・七・八。小説家。盛岡市生れ。西條八十に師事し、大正一三年、佐伯孝夫らとともに詩誌「棕櫚の葉」を創刊。大正一五年には田端修一郎、火野葦平らに評論「街」を出す。のち横光利一に師事し、昭和八年、「文藝春秋」に登場した。小説の代表的作家として人気を博す。大正二年に上海を旅行して以来、中国を舞台にした小説や紀行文を多く発表した。また、「本朝画人伝」などの人物評伝が名高い。著書に「ふらんすお政」「女経」など。

寺崎浩 てらざき ひろし
明治三九(一九〇六)・五・一〇・昭和一五(一九四〇)・七・八。小説家。盛岡市生れ。西條八十に師事し、大正一三年、佐伯孝夫らとともに詩誌「棕櫚の葉」を創刊。大正一五年には田端修一郎、火野葦平らに評論「街」を出す。のち横光利一に師事し、昭和八年、「文藝春秋」に登場した。小説の代表的作家として人気を博す。大正二年に上海を旅行して以来、中国を舞台にした小説や紀行文を多く発表した。また、「本朝画人伝」などの人物評伝が名高い。著書に「ふらんすお政」「女経」など。



野口米次郎



小松清

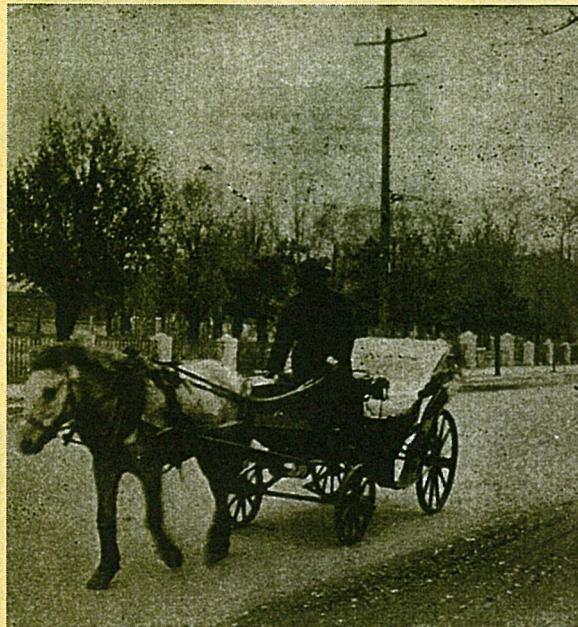
文化人の見た近代アジア

【監修】竹松良明 大阪学院短期大学助教授 A5判上製／函入り
●全24巻 摘定価：本体263,000円十税（分売いたします）

2002年9月刊行

ISBN4-8433-0697-5 C3393

全24巻



関連企画のご案内

*詳細内容見本謹呈

<戦時下>の女性文学 全18巻

長谷川啓監修 A5上製 ● 摘定価：本体236,000円十税
日中戦争～太平洋戦争期に刊行された、女性作家による小説・戯曲・従軍記などの主要な単行本を精選復刻。

日本植民地文学精選集 全47巻

A5上製 ● 摘定価：本体574,000円十税
日本「内地」中心の文学史から抜け落ちた植民地の文学、待望の復刊。歴史的価値が高い作品を厳選した決定版。

大正 中国見聞録集成 全20巻

小島晋治監修 A5上製 ● 摘定価：本体230,000円十税
清王朝崩壊後の中国を旅した日本人による紀行文を精選復刻。政治・産業から庶民の風俗に渡る幅広い記述。

本書の特色

●大正期から昭和戦前期にかけての、文化人によるアジアの旅行記、ルポルタージュを精選しました。

●作家、評論家、画家、ジャーナリスト、外交官などの著作を幅広く収録しました。

●収録地域は、樺太・千島・朝鮮・中国・モンゴルから、東南アジア・南アジア・中近東までを網羅しました。

●近代におけるアジアの人々の生活・風俗を知る上での一級資料です。

●近代日本とアジアとの関わりが広い視野で俯瞰できる書目をラインナップしました。

●各巻の巻末に第一線の研究者による解説（作家紹介、作品の背景、歴史的価値など）を付します。

●文学のみならず、植民地・占領地の歴史研究にも大いに有益な資料です。

●特におすすめしたい方

大学図書館、公共図書館、近代文学・アジア近代史などの研究者。

ゆまに
書房

YUMANI
SHOBOU

〒101-0047
東京都千代田区内神田2-7-6
TEL.03(5296)0491
FAX.03(5296)0493
<http://www.yumani.co.jp/>
e-mail eigyou@yumani.co.jp

ゆまに書房 Tel.03(5296)0491/Fax.03(5296)0493 年 月 日

文化人の見た近代アジア 全24巻

ISBN4-8433-0697-5 C3393 ● 摘定価：本体263,000円十税（分売可）

取扱店
セレクト

※毎度ありがとうございます。お申し込みはぜひ当店へ。

ご注文書

お名前

ご住所

TEL ()

02.07/01.7000.N